



住みやすい町を目指して...②5

“お善光寺様”と庶子の人々

松田町文化財保護委員会 副会長 鈴木 一行 (城山在住)

庶子地区には、住民が^{ずし}厨子に安置された阿弥陀像を背負って家々を巡り、各家庭で供養するという風習があります。現在は小型の厨子・仏像を使用していますが、500年以上も続く伝統行事なのです。では、その辺の由来を。

最明寺は鎌倉時代に建立

現在、史跡として町指定文化財になっている松田

山の最明寺跡は、承久3(1221)年に浄蓮房源^{じょうれんぼうげん}延が開いた寺院の跡です。

源延は源頼朝の御家人となった加藤景員^{かたけかげみん}の3男で、歴代将軍の崇敬を受けた伊豆の走湯権現(現、伊豆山神社)の別当を務めた人物です。彼は長野の善光寺如来を模して仏像を铸造させ、それを本尊として最明寺を開きました。しかし戦国時代初期の文明2(1470)

年、寺は大井町金子に移転してしまいます。そこで庶子の人々が檜で阿弥陀如来立像を造り、家々を巡行供養するようにしたというのです。

戦国時代、当地域は小田原北条氏の支配下にありました。北条氏は屈指の戦国大名でしたが、上杉謙

信や武田信玄などの侵攻を受け、最後は豊臣秀吉によって滅ぼされます。これらの戦争の最大の被害者は地域住民だったはず。敵方の雑兵^{そつひょう}に捕まって、奴隷として売られてしまった住民もいたかもしれません。そんなとき、庶子住民の心の支えとなったのが“お善光寺様”と呼ばれた阿弥陀如来立像だったのでしょう。



最明寺例祭(4月10日)。正面の厨子に“お善光寺様”が(厨子とは、仏像などを納める箱型の仏具)

そして、「徳川の平和」の時代も、人々は仏像や最明寺跡を大切に守りました。「物言い坂」の伝説も、このような時期に育まれていったと思われます。

お善光寺様は町の指定文化財

筆者が庶子に移り住んで40年余りになりますが、お善光寺様は年に一度、我が家にも訪れてくださいます。伝統を重んじながら

も、新参の私共を温かく迎えてくれた庶子の人々。このような地に暮らしていることに誇りすら感じています。

なお、阿弥陀如来立像は町の文化財に指定され、現在は町民文化センターに展示されています。

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下段までご連絡ください。

皆さんの傍聴をお待ちしています! 第2回定例会は6月1日(水)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報広聴常任委員会
石内	中野	南雲	井上	田代	利根川	
浩	博	まさ子	栄一	実	茂	

桜が満開の中、かわい
新入生を迎えた小学校の
入学式、初々しい中学の新
生を迎えた入学式が無事終
わりました。

3月議会定例会は、議員
として初めての予算を審議
する重要な議会でしたが、
この議会だよりに掲載のと
おり、順調に進めることが
できました。

今後とも、町民の皆様
に開かれた議会、分かりや
すい議会を目指し、議会報
告の実施などの、議会の改
革に取り組んで参りますの
で、よろしくお願ひ申し上
げます。
(井上)